

# 名都借の木



2014年 7月 7日発行  
発行者:流山市立木の図書館  
(指定管理者:株式会社すばる)  
住所:流山市名都借313-1  
Tel: 04-7145-8000

## 9月30日は「世界翻訳の日」

「翻訳」と聞いて皆さんは、何が思い浮かぶでしょうか。書名がパッと思い浮かぶ場合もあれば、翻訳をされている方が思い浮かぶ場合もあるでしょう。

翻訳とは、「ある言語で表現された文章の内容を他の言語になおすこと」(『広辞苑 第六版』新村出/編 岩波書店 2008年刊, p. 2619-2620)

NHK朝の連続テレビ小説「花子とアン」のヒロイン・村岡花子は、皆様ご存知の『赤毛のアン』を翻訳していますが、掛川恭子や、中村妙子といった方々も、この作品を翻訳しています。この様に、同一作品を、複数の方が翻訳していることもあります。



### 「星の王子さま」(内藤濯訳、岩波書店 1972年改訳刊)

「ね……ヒツジの絵をかいて!」「え?」「ヒツジの絵をかいて……」ぼくは、びっくりぎょうてんして、とびあがりました。なん度も目をこすりました。あたりを見まわしました。すると、とてもようすのかわったぼっちゃん、まじめくさって、ぼくをじろじろ見ているのです。(p. 10-12)』

アントワーヌ・ド・サンテグジュペリの『星の王子さま』は、1962年に内藤濯訳(1972年改訳)、2005年に池澤夏樹訳で出版されています。前者は児童向けに、後者は中高生以上に向けて翻訳されたように感じられますが、やはり翻訳をされた方の個性が出ているようです

「すみません、ヒツジの絵を描いて」「え、なに?」「ヒツジの絵を描いて」ぼくは雷が落ちたみたいに驚いて、すぐに立ち上がった。それから目をこすって、あたりを見回した。とても不思議な子供が一人そこにいて、ぼくの方を真剣な顔で見ていた。(p. 10)』

### 「星の王子さま」(池澤夏樹訳、集英社 2005年刊)



翻訳された作品は、国を越えて、ことばを越えて、時代を越えて、大切なものを伝えてくれます。いろいろな訳を読み比べてみると、新しい発見があり、その物語を何倍も楽しむことができます。皆さんも、訳の読み比べをしてみたいはいかがでしょうか

暑い夏は冷たいビールをぐびっと飲む、そんな大人の楽しみを持つて、ビールが多いのではないのでしょうか。一方で、ビールは苦味がないとしても、生活の中に溶け込んでいくビールが、どのようなものなのか知っていますか。例えば、冷たくして飲むのは、万国共通のことではないということや、「ビールは苦いもの」となったのは16世紀に入ってからで、初期のビールができた紀元前4000年から考えると随分と短い歴史であることをご存知でしょうか。日本では爽快感を味わう冷やしたビールが好まれますが、ヨーロッパではあまり冷やさず味と香りを楽しむビールが古くから醸造されてきました。また、この苦味はホップがもたらしています。このホップはビールを楽しむためには欠かせない効果をもたらしています。ビール好きのあなたも苦手なあなたも、違った魅力に出会えるかもしれません。違った魅力に出会えるかもしれません。日本酒やウィスキー、ワイン、そしてお酒や酔いについて、本書では紹介しています。一つ一つの項目が細分化され、簡潔に書かれています。ある項目から読み進めることができます。この夏は、「お酒をキーワードに、涼を歴史や外国に思いを寄せてみるのもきっと楽しいですよ。」



『お酒の科学』  
佐藤成美/著  
(日刊工業新聞社)





# 読書で、きもだめし〜



工藤美代子/著  
「なぜノンフィクション作家はお化けが視えるのか」  
(中央公論新社)

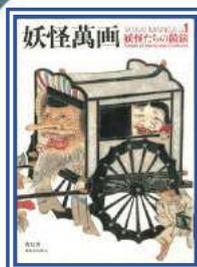
～ 日常に潜む  
不思議な出来事 ～

作家、工藤美代子氏の身の回りで起こる奇怪な出来事 24 話

が収録されています。工藤氏と周囲の人間との会話を軸に、日常生活の描写が多く織り込まれているので、まるでエッセイのようです。会話の自然な流れの中で霊の話が語られていきます。‘凄く怖い話’はありませんが、ひたひたと忍び寄ってくる怖さがどの話にもあります。読後には、本から顔を上げるのを躊躇ってしまうような、そんな恐怖が残るでしょう。これはフィクションなのか、ノンフィクションなのか？考えると改めてゾクッとします。



この本もおすすめてです！



和田京子/編  
「妖怪萬画vol1」  
(青幻舎)

日本美術史の専門家、辻惟雄氏と中国絵画史に精通する板倉聖哲氏の対談を導入に、美術史に残る妖怪画(絵巻物)を紹介しています。絵画には簡単な説明文が付きませんが、ただ絵巻を見るだけでも十分に面白いです。色鮮やかな作品の中から、敢えていうなら、「百鬼夜行之図」は見応え十分です。



他にこんな本もあります！



一般生物の分類と同じように、妖怪ごとに分布・出現時期・特徴などが記述されている妖怪図鑑。“みけねこ、も飼い猫は 12 年経つと妖怪種に変容するらしいです！実は、すぐ近くに妖怪がいるのかもしれないよ。

川村 易/著  
「身近な妖怪ハンドブック」(文一総合出版)



河童についての研究書。鬼や天狗と違って、河童は江戸期にキャラクター化されました。現在も河童の像が様々な地域に存在します。伝承や書物から“河童とは何なのか”を探ります。

飯倉 義之/編  
「ニッポンの河童の正体」(新人物往来社)



知って得する！

## 図書館活用術 vol.1



「図書館を利用するにはいくらかりますか？」

図書館は、**無料**でご利用いただけます。どこにお住まいのどなたでも、図書館の中で本や雑誌などを閲覧(館内で見たり読んだり)することができます。

「本を借りたいのですが、どうしたらいいですか？」

図書館の資料を借りるためには、まず“利用カード”を作りましょう。お名前とご住所の確認できるものをお持ちください。

- ・流山市民の方、市内に通勤通学している方、近隣(柏市・松戸市・野田市・我孫子市)市民の方が利用登録いただけます。
- ・本だけでなく雑誌やCD、DVDなども借りることができます。
- ・“利用カード”は、流山市内の図書館(3館)と分館(3館)で共通してご利用いただけます。

「祝日は図書館もお休みですか？」

図書館のお休みは基本的に月曜日です。祝日は日曜日と同じように図書館の利用が出来ませんので、どうぞお越してください。

- ・祝日＝月曜日の時は、図書館は開いています。代わりにその翌日はお休みになりますので、ご注意ください！
- ・館内の整理をする日として、月末が利用できない場合がありますので、ご注意ください！

具体的な図書館のスケジュールは、図書館のホームページもしくは館内設置の図書館カレンダーでご確認いただけます。スタッフにもお気軽にお尋ねください。

# 子どもの木

木の図書館 子ども科学教室

## 『作って、とばそう、びゅんびゅん鳥！』

7月26日(土) 13時~14時半

場所：東部公民館 参加費：200円

対象：小学生程度25人(先着順)

にゆうさん飲料の容器でステキな鳥を作ったら、洗濯ばさみのバネの力でとばしてみよう！

7月2日 10時~  
電話・来館にて受付開

うみのおぼけずかん  
斎藤洋/著 宮本えつよし/絵  
講談社

うみでであってもだいじょうぶ！



あたしゆきおんな  
富安陽子/文 飯野和好/絵  
童心社

ゆきおんな、こわ~い?きれい?

こおり  
前野紀一/文 斎藤俊行/絵  
福音館書店

こおりのひみつをさぐろう!



## つめた~い? おはなし



楽しい夏休みにするために……

## 夏休みの宿題に関する 図書の貸し出しはお早めに!

自由工作や自由研究、読書感想文課題図書は、  
ご利用になる方が毎年多くいらっしゃいます。

期間中、確実に届きますよう、早期のご予約をおすすめしております!





# これからの木の図書館

連絡先  
木の図書館  
電話：04-7145-8000

## 開館日変更のお知らせ

2014年7・8・9月は  
試験的に月曜日も開館致します。  
休館日は9月30日(火)だけとなります

開館時間：火～土曜日は9時30分～20時  
※7月22日(火)・31日(木)、9月16日(火)は9時30分～17時  
祝日と日・月曜日は9時30分～17時



## 郷土へのいざない vol.6

～伝説・閻魔大王とねずみ小僧金市～



流山2丁目には、江戸時代の閻魔大王を祀った閻魔堂があります。閻魔大王とは、地獄において死人の生前の罪状をあげ、様々な責め苦に合わせる大王のこと。1月16日と7月16日は、「閻魔齋日」または「地獄の釜開き」といって、鬼も亡者も休む日とされており、そのため、多くの人々が「閻魔詣」を行ってきました。

その向い側には、『ピン小僧の金市さま』と呼ばれ慕われてきた、金子市之丞の墓があります。詣でると頭の病気が治るとか、犯罪者の刑が軽くなるといった縁起が伝えられています。

金市は、明和6年(1769)に流山の醸造家の跡取り息子として生まれましたが、家業が傾き、博打打ちから盗賊へと身を落とします。しかし盗賊は盗賊でも、大店から盗み出した金や品物を、貧しい人や病人にばらまく義賊で、天明の大飢饉でも多くの命を救いました。が、文化10年(1813)に小塚原で獄門となりました。

金市には、大口楼の花魁であった三千歳(みちとせ)という恋人がいたと言われ、この2人の悲恋は、講談の「天保六歌撰」となり、のちに河竹黙阿弥によって「天衣紛上野初花」という歌舞伎となりました。ここでは、金市と三千歳は兄妹の設定となっています。明治14年(1881)初演で、大好評を博したそうです。

三千歳の墓は、明治に入ってから、金市の墓に寄り添うように建てられました。向かい合わせに鎮座する閻魔大王に、どうかこの2人には厳しい裁きを下さないでほしいと祈るばかりです。



- ～参考図書～
- ・「こんにちは流山 新100か所めぐりガイド」流山市経済環境部商工課 1997.4
  - ・「東葛流山研究第29号」『楽しい東葛伝説民話事典』2011・「年中行事大辞典」吉川弘文館 2009
  - ・「東葛流山研究第32号」『楽しい東葛いしぶみ事典』2014

7月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

9月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

□ は休館日    ■ は17:00まで開館    ○ はおはなし会    □ はイベント

木の図書館カレンダー

開館時間 日曜日・月曜日・祝日(月曜日の場合は火曜日も)：9時30分～17時

火曜日～土曜日：9時30分～20時

7・8・9月の休館日：9月30日(火)